

2 かがり火キャンプファイヤー

(1) ねらい かがり火を囲み、厳粛さと楽しさの織りなす感動的な交歓を通して、集団宿泊生活の思い出を印象深いものにするとともに、友情を深め、連帯意識を高めさせる。

(2) 事前指導・準備

- 児童・生徒：身軽な服装、班の出し物に必要な小道具類、懐中電灯
- 引率者：班編制、進行計画、必要な小道具（CD、カセットテープなど）救急薬品、懐中電灯
- 所員：かがり火台設営、トーチ、灯油、消火準備物、ワイヤレスマイク、アンプ、投光器、必要な楽器（ギター、アコーディオン、電子オルガンなど）、火の神・巫女の衣装
- その他：準備物全般については、事前に所員と打合わせをしておくことが望ましい

(3) 指導上の諸注意（引率者）

- 進行の手順（集合、入場、基本プログラム、退場）と対応の仕方を全員によく説明しておく。進行の手順については、活動資料の活動展開例や進行要領を参照すること。
- 役割分担（火の神、火の巫女、火の守、司会、実技リーダーなど）について、十分に打合わせしておく。役割分担については、活動資料の役割分担表を参照すること。
- プログラム進行中、ファイヤー場では歌集などは見えにくいので、歌唱する歌詞を覚えさせておく。歌唱指導しておく歌については、活動展開例の表中を参照すること。
- 歌などの全体練習、出し物の練習、進行手順の打合わせなどの時間を事前に十分にとったり、入所後に一定時間を割り当てたりしておくことが大切である。各班の出し物については、5分程度が望ましく、班員全員の協力で進めさせる。
- 儀式の厳粛さや交歓の楽しさを盛り上げるための雰囲気づくりに対して、約束ごとを十分に話し合い、参加者全員の意欲を高めておくことが大切である。
- 交歓のつどいが始まったら、かがりの火を小さくし、投光器でステージを明るく照らした方が煙を最小限に留めることができる。
- かがりに触ってやけどをしたり、座席やステージの昇降時に転倒したりしないよう、けがの防止に注意を払う。
※かがりに焚き物を追加する時は引率者が行い、児童生徒には任さないこと。

(4) かがり火キャンプファイヤー場

